

佳作

周囲と違っていても 山形県南陽市立沖郷中学校 3年 星野 優月

自分に自信が持てるようになったのは、最近のことです。私は小学2年生のころから書道を習っています。以前は書道が好きではありませんでした。しかし、今では書道が好きになりました。その大きな理由は、周囲の人に認められえたことで、自信が持てたからです。

私の利き手は左手です。昔からそうでした。私が書道を始めたきっかけは、ただただ「楽しそう」と思ったからでした。近所の友達に案内してもらって、体験教室に行き、書道教室に通うことになりました。

初めのころは特に感じませんでしたが、書道を始めて2年ほどたち、小学4年生くらいになると、上手に書けなくて書道が嫌になってしまいました。同じ教室の生徒と比べて、字が整っていないように感じていました。無意識に周囲の人と自分とを比較して、自分の字の汚さにがっかりしていました。当時の私は、書道において大切な「とめ」や「はらい」がうまくできていませんでした。その大きな原因の一つは、私が左利きだったためです。字を書くことにおいても、私は利き手が左手だったのです。書道の基本的な書き方は右利き用にできているため、左利きの私にとってはとても書きにくいものでした。とめの向きもはらいの形も、すべてが右利き用でした。私の通う書道教室の生徒に、左利きの人は私以外に誰もいませんでした。他の書道教室に通う友達の中にも、左利きの人は誰一人としていませんでした。だから、私はたとえ右手で字が書けなくても、周囲の人と同じくらい上手に字が書けるように日々努力しました。私は週に1回教室に通っていたので、その1回1回の練習時間を大切にするようになりました。

「とめの形をきれいにするにはどのように書けばよいですか。」

「どうするとこの字の形が整いますか。」

などと、自主的に先生に質問するようになりました。自分でも、どうすればお手本のように書けるか、字をすっきりまとめられるか、改善方法を考えて練習を重ねていきました。すると、周囲の人から、

「左利きなのに、字がきれいですね。うらやましいです。」

と褒めていただくことも多くなりました。小学6年生ごろになると、全国たなばた競書大会で初めて、一番入賞するのが難しい賞『観峰賞』を取ることができました。始めたばかりの時は銅賞や銀賞だったので、自分の成長を実感でき

ました。

それからしばらくして、私は中学生になりました。中学生になっても書道を続ける決断をしました。なぜなら、私にとって書道は、自分が一番に誇るものになりつつあったからでした。書道は、私の一部へと変わっていきました。同じ教室に通う先輩方に続けるよう、継続して字を書きました。

中学2年生の冬、私は書道教室の生徒部の硬筆の八段試験を受けました。結果は無事合格。また、中学3年生になるころには毛筆の八段試験も受け、数ヶ月後には合格通知が届きました。これは、私が約7年間書道を習い続けた中で一番自分に自信が持てるきっかけとなった出来事でした。『八段』という肩書きは、始めた時から現在までの自分の努力の証だと思いました。そして、周囲と違って左利きである私でも、八段を取得できたことがうれしかったです。そして、その自信が、「書道が楽しい」と思えることに直結しました。上手に書けたという達成感や自分の成長による喜びが、今の私自身に繋がっているのだと思います。

私は今でも、書道を習い続けています。長く継続することは、その分だけ自分の力に、自信に、変わっていきます。たとえ小さなことでも、積み重ねていくことで大きな成果となります。「継続は力なり」とも言います。周囲と違うところがあっても、うまくいかないことがあっても、諦めない。諦めないことが、自分にとって大切なことだと思います。私は高校生になっても、書道を続けようと考えています。学校内の部活動で書道部に所属して、継続して書道をしたいです。小学生のころから今まで頑張って積み重ねてきたことを、高校生になってストップさせたくないからです。

これから先、私は書道に関してのことはもちろん、継続することの重要性を伝えていきたいです。そして、自信へと変わったものを、自分の生活にも生かしたいと思っています。うまくいかなくとも、周囲と違っていても、諦めず前進することが大切だと思います。書道から学んだことを忘れることなく、書道を習い続けられていることに本当に感謝しながら日々過ごしていきたいです。